

2005 年度 AIM(Annual International Meeting)報告

国際理事 藤田英子

期間:2005 年 8 月 4 日～10 日

開催地: タイ

会場: The Royal River Hotel 219 Soi Charansanitwong 66/1 Charansanitwong Rd., Bangplad, Bangkok 10700

参加国: *42 カ国 参加者数: *300 名 (*この数字は配布された名簿を参照)

日本からの参加者: 計 13 名

[日本協会派遣] 藤田英子(国際理事)、岩崎統子(国際理事サポーター)、中田晋平(NJR)、近藤茉莉香(NJR サポーター)、松尾早恵(NJR サポーター)

[関東支部派遣] 岩間有喜子

[国際委員] 今西淳子

[オブザーバー] 宮里かをり、島田幸子、島田信隆、山中美智子、岩間陽一郎、藤田佳織

2005 年度の AIM はタイのバンコクを流れるチョプラヤ川沿いにあるホテルで開催された。諸事情で不参加者が多かった昨年のイスラエルに比べ、その2倍の 300 名が参加したが、特にアジア太平洋地域での開催でもあり、プロモーション国である中国、ベトナムをはじめとし、例年殆んど参加しない韓国、インドから複数の参加者がいたということも、同じ地域である日本としては、喜ばしいことであった。設備の整ったホテルでの開催であったが、やはり何らかの衛生上の問題があったのか、疲労とも重なり、日本人も含め体調不良を訴える参加者が続出していたようだ。約 50 ヶ国の代表(委任状参加も含む)が参加し、例年の会議と同様に前年度の事業、会計報告、次年度の事業計画、予算案などの承認を行った。その中で、今回の AIM で特に説明のあったことや、日本が関わった事柄について報告するが、委員会報告書や会議の内容については、すべて CISV のウェブサイト <http://resources.cisv.org/> から検索、閲覧可能である。

■ 開会式と歓迎会

会議はタイ王室の顧問の方を招き、タイ式にドラを打ち鳴らして開幕された。歓迎会はホテルの前を流れる川でのナイトクルーズでタイの会員の方々も参加しての船上でのディナーパーティとなった。

■ Circle of Nations

AIM では恒例の時間のひとつで、各国の国際理事が一年を振り返ってのスピーチを行う。持ち時間1分という中で、その1年間にあった特別なことを報告するのであるが、日本は、九州で開催されたアジア太平洋会議について、初めてのサマーキャンプ開催、日本からの約6千ドルの津波募金などについて報告した。

■ 追悼式

それぞれの国の CISV で功績を残した人々や活躍した人々(2004 年 8 月～2005 年 7 月に亡くなられた方々)の追悼の時間があり、日本からは、東海支部設立に貢献され、初代支部長にも就任された東海支部の佐野正人氏(2005 年 7 月没)の功績を提出。また、インドネシアから日本で開催された九州の APRW に参加されていた Linge さんがこの夏、サマーキャンプ大会委員長をされた直後、不慮の事故で亡くなられたという訃報があった。インドネシアでも、日本同様、初めてのサマーキャンプが開催され、終了直後に事故に遭われたと聞き、さぞかし、ホッとされていた矢先の出来事かと思うと、胸が痛むが、今となっては、心よりご冥福を祈りたい。

■ 津波プロジェクト

2004 年 12 月に発生したスマトラ島沖大地震後、CISV インドネシアは小学校再建のプロジェクトを計画し、全世界規模で CISV 各国に募金活動を依頼してきたが、現在の募金状況とプロジェクトの進行状況が報告された。日本を含め、募金をした国々に対し、感謝状と記念品が渡されたが、7 万 5 千ドルの目標額に対し、まだ、3 万ドル不足しているため、プロジェクトのパンフレットやポスターが準備され再度、募金の呼びかけが行われた。

■ 2005 年度プログラムで日本に対して出たクレームの件数と内容

今年度からプログラムを担当する委員会が直接、問題のあった各国に報告書を手渡す形となった。そのため、何にも問題がなかった場合は報告書を受け取ることはない。残念ながら、日本は国際ドレッシング委員会より、リーダーの性別違反・チーム編成の人数違反・リーダーの教育不足という3件のクレームの報告を受けた。

■ 国際ローカルワーク委員会の名称変更と活動内容変更

ILC (International Local Work Committee) が IMC (International MOSAIC Committee) と名称変更するとともに活動内容に若干の変更があった。どの国もローカルワークという名前で支部や懇親会などの活動をしていることが多く、それらを切り離し、名称を変更することによって、本来の目的である地域での教育的活動を正式にプログラムとして運営するのが目的である。

■ CISV 組織の 5 大目標(カッコ内は目標具体化の基本となるキーワード) Organizational Goals:

昨年の AIM で検討された Strategic Planning5 ヶ年計画のまとめとして、5 つの目標が提示された。各国際委員会と加盟国(NA)はその目標実現に向かって、事業計画を立て、今後の AIM では、その成果を報告、2009 年にその目標が達成できるよう努力する。

1. By 2009, increase, by at least 10%, the number of people assuming an operational or program leadership position competent in their role. (*Leadership is the key to success*)
2. By 2009, CISV will benefit from co-operation on at least 50 projects with an LMO each year (ongoing or one time) (*quality through co-operation with other organizations.*)
3. By 2009, increase the fundraising training and resources provided to NAs and chapters; and, by 2006, propose methods to reduce the negative impact of currency fluctuations including a proposal to standardize host fees. (*How to find a fair way to financially support the organization in every continent*)
4. Every chapter hosts one additional official program/activity per chapter, per year until 2009. (*How to consolidate (strengthen) existing chapters.*)
5. By 2009, identify key elements of exclusion in CISV structure, culture, programs/activities and adopt appropriate actions to avoid exclusion. (*How to avoid excluding people, groups, NAs and nations from CISV*)

■ 各委員会の次年度事業計画

<http://resources.cisv.org/documents> から検索、閲覧可能であるが、今年から、上記のどのゴールを目指しているかが明記され、あるいは、関連付けて報告されている。

■ 各国の事業計画

各国も組織の 5 大目標に関係づけて、今後の事業目標(計画)を提出した。日本から提出したものは以下のとおりであるが、他の国がどのような目標を立てたかは、日本協会の HP にこの報告書とともに掲載する。

目標	どの 5 大目標と 関係しているか	理由
By 2007 every chapter hosts at least one official program/activity per year (4 chapters in Japan)	No.4	Because we have two or three programs in Japan per year now
By 2007 to help promotional associations become full member nations and find nations interested in CISV (Vietnam, China)	No.5	We can add a lot of different cultures and structures by recruiting Asian countries.
By 2007, dig out old participants who were active in CISV before and call them back to CISV to contribute their leadership in CISV Japan and use their connection.	No.1	Because we are planning to have a big celebration for the 50th anniversary in 2007.

■ Re-branding

CISV の理念と活動実績を深く理解することを目的のひとつとして Re-branding 計画が発表された。CISV のロゴ、ネーミング自体を見直すことも含まれる計画で、Motion(提案書)として提出されたものが可決されたため、今後、CISV 内外で調査が続けられる。より多くの会員の声を聞くためにすでに HP 上でアンケート調査が行われている。日本からも個々でこの調査に参加していただきたい。来春に、調査結果のまとめに対して Web 上での投票が予定されている。調査参加のアクセス先: http://ktp.cisv.org/expressing_effectively_who_we_are/

■ キャンセル罰金額・期日の変更

Motion で承認されたため、2006 年から適用される。これまでと、期日、金額が変更されているため各プログラム関係者

は必ず、2006年になった時点で、HPでINFO FILE C-11を確認していただきたい。

■ Motion

毎年、AIMでは、様々なMotion(提案書)が提出され、検討される。今回、承認されたMotionは以下のとおり。

- 1) プログラムキャンセルで生じる罰金額、期限の変更(2006年から適用される)。
- 2) INFO FILE O-22 に以下の英文を追加する。
One of the full members of the committee or taskforce must be the Alternate Chair, and act an alternate point of contact when the Chair is unavailable. The Alternate Chair will also step into the Chair position until and during the next AIM, in the event that the Chair requires a leave of absence or is unable to complete his/her term
- 3) INFO FILE V-22, Chapter2.4 から and mid AIM excursion を削除する。
- 4) リーダーの性別違反で女性リーダー指定のところ男性リーダーとした場合、ペナルティの対象としないという提案に対して、国際ビレッジ委員会は今後の成り行きを見て、判断することになった。
- 5) 国際ジュニア委員会による INFO FILE O-15 の変更。
- 6) IYM の参加年齢、開催期間、チーム編成に関しての変更(2006年から適用される); INFO FILE C-3/IYM Guide/General Guide の内容が変更。
- 7) 国際ローカルワーク委員会の名称変更と活動内容の変更; International Mosaic Committee(IMC)と変更
- 8) 2007年に「A Culture of Peace through Peace Education」と題したNGO会議をCISVがホスト(開催、運営)する計画。調査、実行に向けての委員会を設立。
- 9) IEC(International Executive Committee)によるAIM並びにPre-AIM会議の構造、運営方法などの見直しと調査。
- 10) 5大目標達成のためにCISVの理念と活動実績を深く理解することが欠かせないが、現状では問題が多いとの認識に基づき、ERC(External Relations Committee)と本部事務局長からCISV自体の内外での表現方法の見直し調査(Re-branding)が提案され、可決された。

■ 来年度以降のAIM開催予定国

2006年 スウェーデン(8月5日～9日)開催予定地:Jonkoping(ストックホルムから南西に320km)

2007年 コロンビア

2008年 イタリア

■ アジア太平洋地域ミーティング AIM中に地域ごとのミーティングが開催される

今回は通常地域全体会と国際理事ミーティングの2つのミーティングが開催された。地域コーディネーターの今西淳子さんから提出されている報告書(英文)は、日本のHPに掲載する。

会議参加国:フィリピン、タイ、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、日本、インドネシア、インド、中国、ベトナム

来年度以降のAPRW/JASPARCの開催予定国

2006年 フィリピン(4月11日～16日)

2007年 ニュージーランド

2008年 インドネシア

2009年 韓国?

2010年 インド?

■ 国際委員

2005年8月から2006年7月まで、国際委員として登録のある日本のCISV会員の皆様は以下のとおり。

EDR Educational Development and Research Committee 島田采子(Full)

ODC Organizational Development Committee 今西淳子(Full)

Peace Fund 今西淳子

SCC Seminar Camp Committee 中田晋平(Co-opted)

IVC International Village Committee 矢次和代(Co-opted)